

第1回防災推進国民大会「地区防災計画フォーラム」に参加しました(2016/8/28)

テーマ：地区防災計画、自主防災活動、女性の参加
場所：東京大学本郷キャンパス 理学部（東京都文京区）

8月28日（日）東京大学本郷キャンパスにおいて開催された第1回防災推進国民大会（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）において、「地区防災計画フォーラム」が開催され約80名が参加しました。フォーラムは、東京大学生産技術研究所の加藤孝明准教授から「地区防災計画が社会を変える」と題する講演が行われ、続いてパネルディスカッションとして「女性の目線が地区防災をリードする！」「行政と住民との対話が創る地区防災！」が行われました。

当研究所から桜井愛子准教授（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）が参加し、パネル討議「女性の目線が地区防災をリードする！？」のモデレーターとして議論をまとめました。同パネル討議では、パネリストが全員女性という、地区防災計画のフォーラムでも異例の討議となりました。まず、高知市防災対策部地域防災推進課の山本美咲主事から「多様な視点による地区防災計画～高知市下知地区防災計画の取り組み」、名古屋市南区役所総務課の中野紗江子主査より「名古屋市星崎学区の地区防災計画の取り組み」、愛媛大学の今西桃子氏より愛媛大学の「防災リーダークラブの取り組み」について報告が行われました。続いて、名古屋大学減災連携研究センターの阪本真由美特任准教授から「地域防災における女性の参画について」熊本地震での女性に配慮した避難所対応、女性視点を地区防災計画に入れることの大切さ、等について報告があり、討議が行われました。

昨年の第3回国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組み」においても、女性の参加がジェンダー視点からの災害リスク管理を進める際に重要であることが指摘されていますが、我が国の現状を見ると、地域防災における男女分業の傾向が見られ、意思決定への女性参加の機会はまだまだ限られています。地区防災計画を推進する中で、女性の意思決定への参加機会が増え、多様な視点を取り入れた地域防災が進められることが期待されます。神戸大学の室崎益輝名誉教授による「内発的、自律発展的な取り組みが無限大の共助を実現する。共助の力を引き出すために女性の力は不可欠である」との総括で、フォーラムは締めくくられました。



フォーラムでのパネル討議の様子